

手足口病・ヘルパンギーナ

手足口病及びヘルパンギーナは、主としてエンテロウイルスにより引き起こされる疾患です。

埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターにおいて、2008年から2013年までにこの二疾患から検出されたウイルスについて、下表にまとめました。

手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルス A16 (CA16) 及びエンテロウイルス 71 (EV71) が多くを占めるとされてきましたが、2013年はコクサッキーウイルス A6 (CA6) が多く検出されました。2013年は、手足口病の定点あたり報告数が例年に比べ大きく増加し、この流行に CA6 が関与していることが推測されます。また、CA6 に次いで多く検出された EV71 は、中枢神経合併症の発生頻度が高いとされています。手足口病流行時には、中枢神経合併症の発生動向に注目することも必要です。

ヘルパンギーナは、検体数が少ないこともあり流行をとらえるまでには至りませんでした。2013年は手足口病と同じく CA6 及び EV71 が検出されました。

臨床診断名別ウイルス検出状況

臨床診断名	年	検体数	検出ウイルス									その他
			CA2	CA4	CA5	CA6	CA8	CA9	CA10	CA16	EV71	
手足口病	2008	10		1		2					3	
	2009	9				2						2
	2010	14				3				3	5	3
	2011	23				10			1	1	3	3
	2012	19				5	1	2		5		2
	2013	45				28						11
ヘルパンギーナ	2008	11	1			2			5	1		
	2009	2										1
	2010	8	3	1		2			1			1
	2011	6				1			3			1
	2012	14		6	2							4
	2013	7				3						2

県内での流行状況を知るために、病原体定点医療機関の先生方におかれましては、検体採取にご協力くださいますようお願い申し上げます。